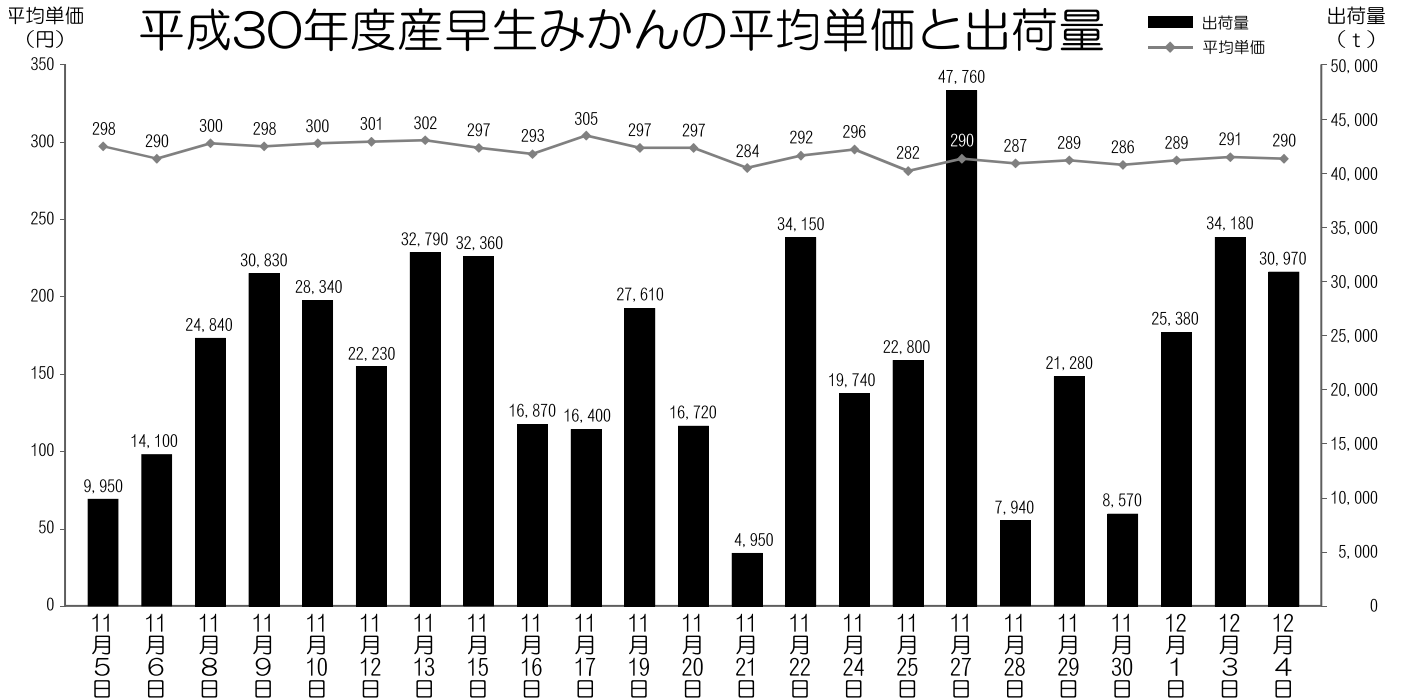


# 伊方町農業支援センターだより

Farmer's Communication Magazine For IKATA Member's

## 早生みかんの取引価格好調！



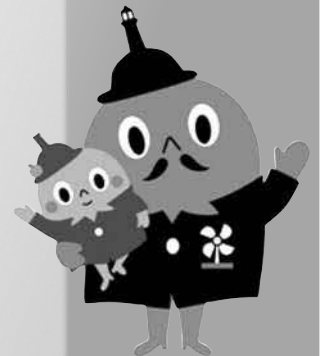
この表は、伊方共選の各取引市場（11/5～12/4）での早生10k（優・良・良々）の平均単価と出荷量を示したものです。7月の豪雨災害また9月末～10月上旬の、2つの台風襲来など生産者の皆様は、大変ご苦労されたと思います。しかし30年度産は、食味も非常に良くテレビの報道でもありました通り、前年度と同じ好調なスタートを切り順調に推移しています。

### CONTENTS

1. 早生温州の価格推移
2. 早生温州、大田市場初競りの様子
3. 伊方共選鮮度保持装置
4. 西宇和かんきつ産地直送出前事業
5. 郷土料理の伝承活動
6. 地域おこし協力隊活動報告
7. 地域おこし協力隊の募集
8. 農業者年金のご案内

伊方町イメージキャラクター

サボロディー



No.25

企画発行 / 伊方町地域担い手育成総合支援協議会（伊方町農業支援センター内）  
〒796-0301 西宇和郡伊方町湊浦 1993-2  
JAにしよう伊方支店 営農管理センター内  
TEL (0894) 38-0311 FAX (0894) 38-1063

◆ 瀬戸・三崎地域の受付窓口 ◆  
瀬戸支所地域住民室 TEL (0894) 52-0111  
三崎支所地域住民室 TEL (0894) 54-1111

# 早生温州初競り (東京大田市場) !

## 1箱30万円の高値も!



競りの様子

11月5日(月)に東京・大田市場など全国26市場において、JAにしゅうわ産の早生温州の初競りが行われました。今年も温州みかん販売対策のため、伊方町長や八幡浜市長をはじめ産地の関係者が初競りの視察や市場関係者との情報交換会を行いました。今年度は初競りの視察に青壮年同志会の伊方支部から2名の会員が同行し、自分たちが生産したみかんの価格が決まる瞬間に立ち会いました。仲卸やバイヤーの多さを目にし、西宇和という産地がどれだけ期待されているか実感したようです。伊方共選のみかんは秀品で1箱(10kg)1万円という高値がつけられ、自信にも繋がったと同時に消費者にもっとおいしいみかんを届けられるよう、努力しようと決意を新たにしていました。最後に日の丸の桐箱(12個入り)が競りにかかり、「3万」「5万」と値がついていき、最後の1箱にはなんと「30万」の声があがり、会場がどよめきと拍手に包まれていました。



各共選のみかん試食に手を伸ばす関係者



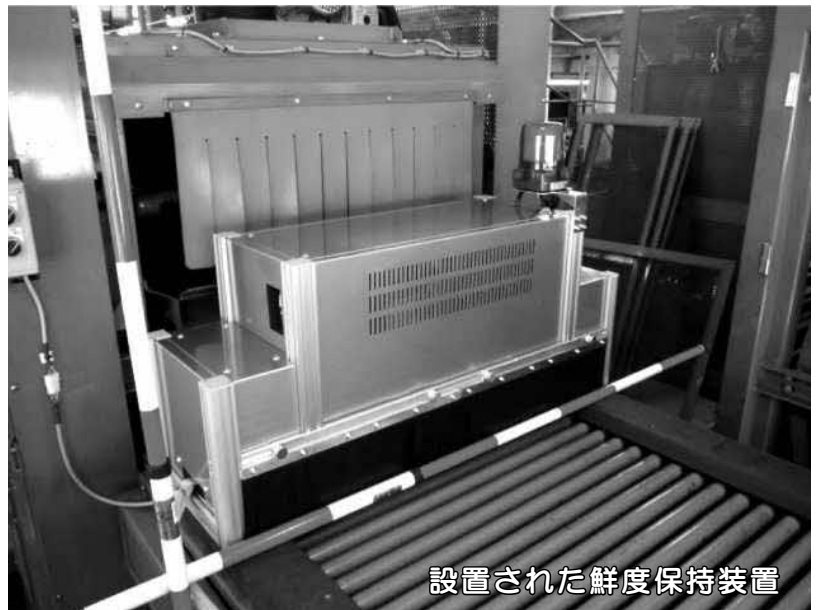
桐箱入りのみかん

# 伊方共選に鮮度保持装置導入！

選果場においては光センサー等を使用し厳選出荷を行っていますが、近年、温暖化の影響により輸送中に重量減少化、腐敗果の発生が増加し、市場や消費者より対策を行って欲しいと強く求められているところです。昨年度、他共撰で実証試験が行われ、効果が確認されたことから導入される運びとなりました。

今回導入した鮮度保持装置は、果実に光照射する事で蒸散抑制効果を得るとともに腐敗果発生率も抑制されます。また、腐敗果を抑制することにより市場及び消費者に与える安心安全の観点から品質維持効果としても期待できます。

早速今シーズン出荷される早生温州から稼働が開始されました。実際の効果についてはこれから検証を重ねていきますが、少しでも新鮮な状態で消費者のもとへみかんが届き、伊方みかんの信頼度向上に繋がればと思います。



事業名	平成30年度伊方町電源立地地域対策交付金事業
事業主体	西宇和農業協同組合
事業内容	鮮度保持装置設置 2台
事業費	17,809,200円 (うち交付金額11,543,000円)



真剣に話を聞く子どもたち

この出前事業は、県内外の若い世代に向けたPR活動の重要性が増すなか、県内及び首都圏の小学生をはじめとする若い世代を対象とした、農業への理解促進とかんきつの消費拡大を目的に実施しています。青年農業者自らが直接消費者とふれあうことにより、消費者に目を向けた生産販売意欲の向上や知名度アップに貢献しています。

毎年10、11月頃の温州みかんと2、3月の晩柑類に分けて首都圏及び松山市の小学校で授業を行っています。

伊方地区青年農業者協議会の会員も、10月30日の松山市の味生小学校と味生第二小学校の授業に参加してきました。

今回参加した会員は初めての授業ということで、ぎこちない説明ではありましたが小学生に分かりやすいように、みかんについて説明していました。

授業を受けた小学生は、さすが愛媛の子どもたちだけあって、3つの太陽のことや、出題されたクイズにも多数の人が正解していました。

説明が終わった後は、会員が持参したみかんの枝で収穫体験を行いました。みかんを実際に摘むのが初めての子も多く、貴重な体験となったようです。また、その収穫したみかんをその場で食べると「新鮮でとてもおいしい」といった感想が出ていました。なかなかみかん園地に足を運ぶことのない都会の小学生に少しでも農業を知ってもらい、みかんの消費が拡大につながったり、将来みかん農家になりたいと思う子どもたちが一人でも増えてくれればうれしいです。



説明をする会員



# 郷土料理の 伝承活動

伊方町生活研究協議会(石崎初美会長 3グループ 28人)は、地域の郷土料理・食文化を町内の子供たちに伝承する活動を毎年実施しています。今年は町内3校の小学校で郷土料理づくりを行いました。

9月27日は、四ツ葉グループ(瀬戸)が、大久小学校の5、6年生(14人)と、タコ飯、かんころ、フカの湯ざらし、ひじきサラダなど6品目を作りました。

フカの湯ざらしを初めて食べる子やひじきは嫌いだという子もいましたが、会員と一緒に料理をすることで、「ひじきは苦手やったけど、このひじきサラダは好きでした」「かんころは芋もちに似ていて甘くて好きです」等の意見が子供たちからありました。

また、10月3日には、たんぽぽグループ(伊方)が水ヶ浦小学校の5、6年生、7人と芋餅とさんきら餅を、12日には、はるみグループ(三崎)が、三崎小学校の6年生11人と丸ずし、さざえみそ、つと豆腐、麦豆(きんぼ)を作りました。

郷土料理で取り上げられる献立の多くは、冠婚葬祭や祭りなどの人が集まる機会に作られていたものが多く、近年家庭や地域で行事ごとをすることが減り、料理を家庭で作る機会も減っています。

子供たちも郷土料理を食べる機会が減っていることから、この様な機会を通して、地域の味の伝承や文化の伝承を継続していきたいと石崎初美会長は言われております。

ぜひ、ご家庭でも機会を見つけてチャレンジしてみてください。

## <参考レシピ>

### はるみグループ(三崎)が伝承する“さざえみそ”の作り方

#### 【材 料】

さざえ(身のみ) …50g  
 玉ねぎ ……………100g  
 味噌 ……………100g  
 砂糖 ……………50g  
 油 ……………適量

#### 【作り方】

- ① さざえは沸騰してから約15分茹で、つもりを取り除いて水洗いし、好みの大きさに切る。
- ② 玉ねぎは5mm角くらいに切り、油で炒める。
- ③ 味噌、砂糖を②に加え、少し煮る。
- ④ 最後にさざえを入れ、一煮たちさせる。



【太刀魚の丸ずし作りに挑戦】



【うまく丸くならない餅に悪戦苦闘】



【全校生徒27人分の清見ゼリー作り】



## おおくぼ、農業女子はじめました。

2018年もあとわずかになりました。4月から協力隊に着任し、東京・大阪と都市部で伊方町のPRをさせていただく機会をたくさんいただきました。

10月13日、大阪で開催された「愛あるえひめ暮らしフェア」で講演させていただきました。

地域おこし協力隊や移住に興味のある関西圏の方がブース相談をしたり、みきゃんと交流したり、蛇口からみかんジュースを楽しんでいました。「愛媛県出身なんです！」という方もたくさんいらっしゃいました。今回の講演では、私の移住に至るまでの経緯や、なぜ伊方町に移住を決めたのか？伊方町の住環境や現在の生活、協力隊のお仕事について、など、30分程お話させていただきました。伊方で過ごす生活の中で、帰宅すると近所の方がおすそわけしてくれた野菜がお出迎えしてくれます！と話す、みなさん驚かれています。講演終了後には、協力隊に興味のあるご夫婦の方が声をかけてくださりました。このフェアでは、全体を通して100名を超える方々に



みかん蛇口

来場していただきました。

10月27日には伊方町単独の「灯台じもと暮らしフェア」に参加してきました。こちらは三崎の農家さんや町職員の方とともにトークショー形式で、農業を始めたきっかけ、大変さ、やりがい、1日の過ごし方、町の支援制度など伊方の農業についての紹介を行いました。トークショーの後はアグリカフェということで、はなはな祭りで好評だった芋クレープを作りました。伊方町のみかんやジュース、柑橘を使ったドーナツも登場し、美味しく楽しい時間となりました。

少しでも伊方町や農業に興味を持っていただき、移住や地域おこし協力隊への応募のきっかけになってくれればと思います♡



愛あるえひめ暮らしフェア



灯台じもと暮らしフェア

# 地域おこし協力隊(農業振興) 2名募集中！！

伊方町では、現在6名の隊員が日本一細長い佐田岬半島に「新たな風」をおこそうと、日々活躍中です。

**「伊方町で地域おこしに関わりたい」**  
**「都会を離れて伊方町でチャレンジしたい」**  
**「生まれ育った伊方町に戻って活躍したい」**

そんな思いをお持ちの方、地域の方々と一緒になって地域おこし活動に挑戦してみませんか。豊かな自然と温かい人情にあふれたこの町で、あなたも共に。

## 主な業務（活動内容）

伊方町の農業に新しい風を起こす挑戦をする「地域おこし協力隊員」のみなさんを募集します。活動内容は農業について勉強をしながら、以下の中から得意分野やチャレンジしたい項目を選択。

- ① 地域にあった農業振興策、担い手の誘致、繁忙期の労働力確保等
- ② 農業者の意識を変える農村塾の企画・運営
- ③ 6次産業化の推進
- ④ 既存農業関連施設（瀬戸農業公園、瀬戸アグリトピア）の有効活用策
- ⑤ 実証圃の管理（耕作者不在の農地等）
- ⑥ 有害鳥獣対策（捕獲と防御等）
- ⑦ 情報発信 具体的な取り組みをホームページやSNS等を活用して発信します。



※ 応募手続きなどの詳細については、伊方町ホームページをご覧ください。

現在活動中の隊員の詳細はポータルサイト“いかたライフ”をチェック！

<http://www.town.ikata.ehime.jp/site/iju-teiju/8769.html>



**都市部からのUターンもOK！**

国が支える

安心の終身年金

# 農業者年金

保険料は全額社会保険料控除で大きな節税効果

条件を満たす担い手には月額最大1万円の保険料補助

農地の名義がない配偶者・後継者も加入できます



詳しくは…   <http://www.nounen.go.jp>

農業者年金の内容やご相談については、最寄りの農業委員会かJAまたは農業者年金基金にお問い合わせください。

**伊方町農業委員会 TEL:38-2658**

**独立行政法人農業者年金基金**

TEL: 03-3502-3199(専門相談員)

TEL: 03-3502-3942(企画調整室)

